

Y25b GAO-ITB リモート望遠鏡システムを用いた教育活動

田口 光、衣笠 健三、倉林 勉、橋本 修、古在 由秀 (ぐんま天文台)、H.L.Malasan、B.Dermawan、
B.Indradjaja (バンドン工科大学)

ボツシャ天文台を持つインドネシア・バンドン工科大学 (ITB) とぐんま天文台 (GAO) とでは2002年7月以来、天文学の研究と教育に関する提携協定関係を締結している。これまでに様々な共同事業を行ってきたが、教育に関連して最も重要な位置を占めている活動が、両者間での小型望遠鏡を用いたリモート望遠鏡システムである。双方が南北に離れている利点を活かし、望遠鏡を遠隔操作することによって日本にいながら南半球の天体をリアルタイムに見ること、あるいはその逆のパターンを可能にしている。このような機会は学校などにおける天文学の教育に新たな境地を提供するものと考えられている。2006年6月17日には「南天の星空をみてみよう」と銘打ったぐんま天文台のイベントを開催し、南十字星などの南天の天体のリモート観測を行ない、大きな成功を収めた。

本発表では、6月に行なったイベントの状況を報告するとともに、リモート望遠鏡システムの概要と現状を紹介し、天文教育における有効性について言及する。なお、予定締切後の2006年12月20日には、バンドン工科大学のキャンパスからぐんま天文台の望遠鏡を遠隔操作する試みを計画しており、その実行結果についても報告する予定である。